

センター活用事例

(秋田県生産性向上
支援センター)



ビジネス旅館
はたなか

秋田での工事関係者など
長期滞在をターゲットに
稼働率を上げる支援



温かい家庭料理と好立地で宿泊客を魅了

秋田市土崎の「ビジネス旅館はたなか」は、1994年に創業し、長期宿泊客をターゲットとした宿泊施設だ。代表である畑中蘭子さんは、所有していた土地を活用して旅館を開業、ビジネス客を中心とした独自の営業を重ねてきた。現在は秋田市内にとどまらず、男鹿市や能代市といった周辺エリアで展開されるインフラの定期点検や、洋上風力発電関連の整備工事・メンテナンスに従事する作業員や技術者たちの貴重な滞在拠点となっている。同館の最大の強みは、朝・夕に提供される温かな家庭料理だ。最近の若者や作業員の中には、朝食を食べなかったり夕食をコンビニエンスストアやスーパーの惣菜で済ませたりする食生活の変化も見られるが、同館では「働き盛りの人たちに、しっかり栄養を取ってほしい」という想いから、満足度の高い献立を提供している。毎日の夕食時に交わされる、心温まる会話こそがリピート利用の最大のきっかけとなっており、長年にわたる経営を支えてきた特徴のひとつでもある。

伴走型支援を活用し持続可能な安定経営を目指す

長年にわたり既存客からの直接予約や口コミ、企業からの直接依頼を中心に顧客を獲得してきたが、スタッフの高齢化や調理工程の属人化に課題を抱えていた。2024年からの販路拡大支援により、2026年1～6月の売上は2024年同期比約200%に伸長。次のフェーズとして顧客満足度を維持しながら、継続できる運営体制を構築するため、秋田県よろず支援拠点内に設置されている「生産性向上支援センター」によるサポートを受けることになった。

生産性向上支援サポーターは週に1回程度のペースで支援を実施し、同館と伴走しながら、過去台帳の分析や業務の棚卸しを行い、食事提供日と役割別労働時間を可視化した。日曜日の食事提供定休日に加え、年間を通じた休業日を設定し、予約に合わせた人員配置を進めた。あわせて細かな作業の見直しを行うことで、6～8月の換算労働時間を前年同期比40.9%削減し、同期間の宿泊売上も昨年対比13.3%増加しただけでなく、調理工程の属人化解消にもつながった。今後も利益拡大、新規顧客の獲得、顧客満足度の維持向上に向けて、同センターの支援を受け、持続可能な安定経営に挑み続けていく。



はたなか らんこ
代表 畑中 蘭子

ビジネス旅館はたなか
〒011-0941
秋田市土崎港北5丁目5-42
TEL:018-847-2283

>>> 活用事例

秋田県 生産性向上支援センター

企業の生産性向上に関する相談に対し、複数回の現場訪問による伴走支援を通じて課題解決に向けた提案・助言を行います。

【お問い合わせ】
秋田県
生産性向上支援センター
TEL. 018-860-5609



家庭的な雰囲気と温かみの溢れる食堂。
おいしい料理を期待させる。



素朴でも温かく、家庭料理のおいしさを提供したいという
畑中さんのこだわりが感じられる。



和室のほか、洋室も備えているという。
日中には清掃が入るので気持ちよく滞在することができる。